

## 家畜衛生情報



### ☆ ハエの防除対策をしましょう ☆

気温が上昇し、ハエの発生が増えてきました！

- ・ハエ対策を行わないと成虫が大量発生し、家畜のストレス、病原体の媒介、近隣からの苦情などの弊害が生じます。
- ・ハエの産卵個数は50～150個/回。産卵後8～15日と短期間で成虫になります。
- ・殺虫剤を効果的に使い、防除に努めましょう。

(★ハエの生態：卵→幼虫(ウジ)→さなぎ→成虫)

#### 【幼虫対策】

- ・ハエ対策には経済的な幼虫対策として、ウジの発生する場所にIGR剤(脱皮抑制剤)を水で希釈して、1ヶ月毎に散布する方法をお勧めします。(★IGR剤には、シロマジン、ジフルベンズロン、ピリプロキシフェン等があります。)
- ・散布方法は、薬剤の濃度を守り十分な量を撒きます。散布する間隔が長くなると、薬効に切れ目ができるので十分な効果は得られません。
- ・幼虫対策を続けていてもハエ(成虫)が増えてきたら、IGR剤の散布間隔を2週間程度と短くして回数を増やし、あわせて成虫対策に毒餌法を行うと効果的です。

#### 【成虫対策】

- ・毒餌法は、ハエを引きつける砂糖や粉ミルク、お酒、糖蜜などに殺虫効果のある有機リン系やカーバメイト系などの薬剤を混合したものを、洗面器等に浅く入れておき、餌を舐めにきた成虫を退治する方法です。

(方法) ① 薬剤を水で10倍に希釈する。

② 0.5%程度の糖蜜や砂糖水を混合して洗面器等に適量入れる。  
必要に応じて粉ミルク、お酒を加えてみる。

③ 農場内の家畜が口にすることのない適切な場所に配置する。



(★有機リン系は？→トリクロロホン剤、フェニトロチオン剤、プロチオホス剤など  
カーバメイト系は？→プロポクスル剤、カルバリル剤、バリゾン乳剤など  
その他に固形の毒餌として、イミダクトプリド剤が市販されています。)



**成虫が増える前の対策が有効です。幼虫対策を実施しましょう。**

**※サシバエ対策は次のページ**

## ○サシバエについて

サシバエは、ストレスや痛みの原因になるばかりか、牛白血病やサルモネラ症などの感染症を媒介することも知られています。

### 対策目標

越冬した個体が増える前に、発生源を減らしましょう。

#### (発生源)

畜舎の柱の根本、床からの立ち上がりなど、除糞しにくく家畜に踏まれないとこにできる、糞や餌、敷料などの溜まり場。

卵→幼虫→成虫の発生源となります。

#### (幼虫対策)

頻繁な清掃で発生源に糞や餌、敷料などが溜まっていないところでは発生しません。

どうしても除去しきれない場所に、幼虫対策の殺虫剤を使用すると効果的です。

#### (成虫対策)

・畜舎周辺の草を刈る(発生したサシバエの休憩場所を無くし、畜舎への侵入機会を減らす！)

- ・ハエトリ用粘着シートを、餌箱、牛舎と外の境界に設置。
- ・防虫ネットで牛舎を覆う。
- ・イヤータッグの利用。等